

奥坂拓志, 羽鳥 隆 (編)

膵癌診療ポケットガイド

大松重宏

城西国際大准教授

私はがん専門病院に相談職として勤務していたが、日々の業務の中で、膵臓癌の患者さんやその家族から鬱積した思いをうかがうことは少なくなかった。その多くは怒りであり、私自身に対して向けられたものではなく、「膵癌はなかなか早期に発見できないとは理解できたが、あんなに調子が悪いと訴えていたのに」(診断の困難性)、「膵癌＝難治性であるという以外に情報が少な過ぎる。ほかの癌はいっぱいあるのに」(情報の欠如)、「治療の難しい局面で生活のこと(お金、仕事、家族)もたくさん決めていかなければならない」(心理社会的課題)という膵癌患者さんの置かれている状況が根底にあつてのことと思われる。

本書は、そのような膵癌患者さんや家族をサポートするための大きな指針となるであろう。研修医およびこれから膵癌を専門としようとする若手医師向けに書かれたものだが、医師にとってはもちろんのこと、癌を専門とする看護師、

薬剤師、また膵癌の患者さんやご家族の相談にのる立場の者にとっても非常に役に立つ。それは単なるテキストではなく具体的な記述が多数盛り込まれ、最新のトピックスを取り上げるなど、膵癌治療を正しく理解するためにさまざまな工夫がなされているからである。例えば腫瘍マーカーの特徴や術前のICのポイント、化学療法に伴う副作用とその対策などは、大変わかりやすく解説されている。

私自身は、医療の中にいる社会福祉専門職であるが、膵癌患者さんや家族が語ることが十分に理解するためにも大いに役立つであろうし、相談の中で膵癌やその治療に関する話を整理しもっと主治医やがん専門看護師に聞いたほうがよいことを一緒に考える際にも参考になる良書に違いない。

さらに本書の秀逸なところは膵癌の患者さんやその家族が今までと同じように暮らしていけるようにするための種々のサポートを取

り上げて、院内、院外にどのようなサポーターが存在するのか、またサポートとなるシステムについても理解できるように書かれているところである。相談支援センターの役割やがん専門看護師はもちろん、同じ膵癌を持つ仲間たちの集まりである患者支援団体の活動についても紹介されている点は実に新鮮である。そのほか、がん患者の医療的ケアを十分に保障するための地域連携などについてもかなり具体的に説明され、本書が患者さんとその家族が地域で生活する点にも十分に焦点を当てていることがわかる。

最後に、この『膵癌診療ポケットガイド』を携帯し、日々の臨床に力を注ぐサポーターたちが一人でも多く増えることを望んでやまない。

●B6 変型/頁 320/2010 年/定価 5,250 円 (本体 5,000 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-00951-5]
医学書院 刊